



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第三十八号〜

小暑

七月七日



## てるてる坊主

おかげ横丁のお店の軒下にずらりと吊るされた、てるてる坊主。ありきたりのはずですが、近頃あまり見かけなくなったのは、吊るす場所がなくなったからでしょうか、我が家も含め軒下のない構造の家が多くなりました。

もともとは中国の雨乞い風習の「掃晴姫(サオチンニャン)が平安時代に日本へ伝わり「照る照る法師」となって、江戸時代に「てるてる坊主」として庶民に広まりました。当時は折り紙のように紙を折って作られ、その形代を半分に切ったり、逆さに吊るしたりして祈願し、願いが叶うともとの真つ当な形に直し、御神酒やご馳走を供え、川へ流したといえます。

おなじみの「てるてる坊主 てる坊主 あした天気にしておくれ」で始まる童謡は、浅原六朗(号は鏡村)が作詞、大正十一年(一九二二)に『少女の友』で発表されました。同郷の中山晋平が作曲したのどかなメロディとは裏腹に、てるてる坊主は晴れたら、金の鈴や甘いお酒がもらえますが、曇って雨が降ると「そなたの首をチョンと切るぞ」とちよつと残酷な歌詞が続きます。

内宮前の天気は朝熊山あまやまでわかるといえます。朝熊山から雲が出てくると雨が近く、雲が山に帰っていくと天気になるというもの。朝熊山頂にある八大龍王社はちだいりゅうでは七月十三日にはご祈禱が行われます。この社は、弘法大師が来訪した時に修行をした八匹の龍が八大龍王の姿となって現れたという伝説があり、火災を恐れる山寺の金剛證寺こんごうしょうじの守護神としてまつられています。雲を呼び、雨を降らせる龍が頂にまつられる朝熊山はやはり天候を左右しているのでしょう。

文 千種清美

